

也 承保二中宮産後、去年十二月廿六日、

〔御湯殿の上の日記〕弘治三年正月一日、四方ばいあり、奉行權辨御ふく藤大なごん、御まへ玄やうぞく永相朝臣、御れん御裾あつみつ、御さうかいつねみつ、玄そく永相朝臣、六位ども不參也、文祿四年正月一日、四はうばいあり、ぶ行右少辨つねとを、御れん御きよ左右大辨、すけたね、ぎよけんさねえだのあそん、もつぐのあそん、ゆきながのあそん、まげさだのあそん、ためちかのりみち、さねあき、もと久、まんくら人なり、御ふくとうさい將、はく三位、ひの御ぎのぎよけん、御まやく、まきのほこ、きよくら人にながはしわたさる、略、中四はうばいにまこうのおとこたちするにて御いはいあり、

天皇不出御

〔江家次第〕正月、四方拜事

諒闇設座不拜延久五年諒闇無御拜、依右大臣被申也、寛徳同之、四條記曰、天曆代初、忌欠日不被

行治曆五年、應徳四年凶會日御物忌時無御拜、但御裝束如例天慶七年幼主設座不拜承平元年

東宮無四方拜、前朝之仰也、代始當欠日、右大臣被申云、可忌否條可依青闈時候不、仰曰、青闈時無拜

仍可忌治曆五年日蝕年例可尋延喜十二年日蝕、四方拜設座臨時不出御例天慶二年、同三年、應徳二年、同三年

〔日本紀略〕延喜三年正月一日癸卯不拜、

〔中右記〕寛治三年正月一日壬申、今朝無四方拜、依幼主御時例也、四年正月一日丁卯、四方拜間有

御出、幼主無此儀、仍御元服後、初有此事也、

〔台記〕康治二年正月一日己丑、今日日食、中稱四方拜事、檢先例、治曆四年雖日食、有此事、見御曆、猶

依有疑、去年仰大内記藤令明文章得業生成佐、友業元官六位令勤、申漢家之事、令明、友業申可有之由、成

佐申可止之由、案之以得理因止之、但公家不被一定、隨當日蝕否可有廢務云々、稱四方拜如何由問、右將軍報云、依日食可止故未見蝕否之前、不可有四方拜歟、因停止之、中後日友業成佐等云、見日